



共 鳴

校 長 佐々木 秀之

1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」といいますが、年が明けて早1か月がたちました。梅は、次第に開花した花の数を増やし、春は確実にもうそこまでやってきていることを感じさせます。

先週の金曜日と土曜日は音楽発表会でした。昨年度までの3年間は、音楽の授業はあっても鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの楽器を吹くことにも制限がありました。今年度の5月以降、子供たちは歌や楽器で音楽を楽しむとともに、友達と音を合わせることで、共鳴することを楽しんできました。

＊

共鳴とは、そもそも振動数の等しい二つの音叉（おんさ）の一方を鳴らすと、他方も鳴り始めることをいいます。オペラ歌手はコンサートホールが大きくとも、マイクを使わずに歌います。それは、小さな声であったとしても、声が響いてさえいればマイクが無くても聴こえるということです。

「声」というのは、目に見えません。その見えない「声」は音楽と一緒に空気が振動して伝わります。しかし、人の声はただ発していても聞いている人には届きません。その空気の振動を相手の心が受け止めて初めて声として認識され、相手にメッセージが届けられます。

「琴線に触れる（きんせんにつれる）」という言葉があります。楽器を弾くとき、琴線に触れると弦が振動して音が鳴ります。人間の心も同じように、何かに感動する出来事があれば心が動き、共鳴します。「琴線に触れる」とは胸の奥にある感情が動かされ、深い感動が起こることです。

心が動く瞬間というのは皆同じではなく、人によって異なります。しかし、もしかすると経験を重ねていくほど心が躍ったり感動したりすることは少なくなっているのかもしれませんが。大切なのは、心が動いた体験を忘れないこと。味わった感動や楽しみはできるだけ感じ続けられるようにしたいものです。

＊

今は多様性の時代です。共通する言葉を目指しても、「私はそうは思わない。」と堂々と言う人がたくさんいておかしくない時代です。だからこそ、「共鳴」が大事なのだと思います。それぞれの学級の中で共鳴がたくさん生まれ、次第に学校全体が共鳴すれば、こんな素晴らしいことはありません。さらに、学校、家庭、地域が手を携えて共鳴する学校づくりを目指します。